

信越放送

活動名	現役記者による小学生のメディアリテラシー授業
実施期間	令和6年7月
実施回数	社内見学1回

【実施学校】 辰野町立辰野南小学校

【事業実施の成果・課題】

4年生ということで、授業でメディアリテラシーを学ぶ前だったことを踏まえ、まずは、身近なテレビニュースがどう作られているのが、興味を持ってもらうよう自作の動画を交え工夫して話をした。今年1月に発災した能登半島地震を例にとり、いざという時に必要な情報の大切さを考えてもらうきっかけにした。

また、災害時のフェイクニュースについても、能登半島地震の例を使って紹介し、SNSなどで流れる匿名の情報の危険性についても伝えることができた。

【事業担当者・講師の感想】

学校を離れ、遠く離れた長野市のテレビ局を訪れる機会ということで、参加した児童みんながキラキラとした表情で興味をもって話を聞いてくれたのが印象的だった。

内容的には、少し先取りになるメディアリテラシーについて触れたが、身近な地震というテーマや、質問形式を交えることで、最後まで興味をもって聞いてもらえたと思う。もう少し、時間的に余裕があれば、児童に考えてもらい、発表してもらうような双方向の学びもチャレンジしてみたいと思った。

【教諭・子どもたち・視聴者などの感想】

<児童の感想>

- ・テレビで流れるニュースは多くの人がかかわっていることがわかった。
- ・ウソのニュースの怖さがわかった。
- ・取材は大変そうなことがわかった。

<教諭の感想>

- ・子どもたちが興味をもって質問しており、お話の内容に引き込まれたことが分かった。
- ・教科書の学びの先行になり、良い刺激となった。